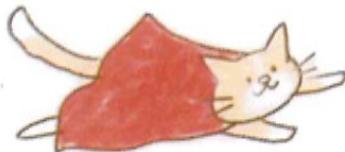


福井民医連ナースが語る



キラッと輝く たからもの

「看護師さ~ん！！」「は~い。どうされました？」
今日も看護師たちの明るい声がはじけます。
全国で最後に小さくつぼみを開いた福井民医連。そこには
ちっちゃくとも元気とやる気にあふれた看護師たちの笑顔が
大きく咲きそろっています。
患者さまの健康回復に喜び涙する日もあれば、力の足りなさに
悔し涙を流す日もあります。
制度の壁に立ち向かい怒る日もあれば、患者さまの持つ困難に
ともに立ち向かい怒る日もあります。
そして、患者さまとスタッフと地域のみなさんと、おもいきりの
笑顔で笑う！笑う！最高に幸せな瞬間です。

わたしたち看護師が胸に秘めていた小さなお話し集めてみました。



福井県民主医療機関連合会

2009年4月

福井民医連看護理念

私たち民医連の看護師には、どんなに時代がきびしくても変わらない価値観・看護理念があります。それは医療人として患者の基本的人権を尊重し、患者とともにつくる医療観であり、生命の重さに差はないという原則を貫く患者観に基づくものです。

そして看護師としては「ナイチンゲールの看護理論」を基本とし、患者の生命過程、回復過程、生活過程、社会過程への働きかけを行い、その人の生活の場所で、健康的でよい状態を目指します。

☆看護にあたる上では「民医連看護の3つの視点」を基本理念とします。

- ①「患者さまの立場にたつ」……するとい人権思想を持つ
- ②「患者さまの要求から出発する」……その人の生活と労働の場から患者・対象を理解する
- ③「患者さまとともにたたかう」……患者さまの事実から学び、看護実践で一人一人の人権を守り要求し、
変革に向かって運動と結びつけます。また、目の前の患者さまへの看護はもちろんのこと、病院や事業所にみえる以外の患者さまへの看護としての民医連運動です。

☆看護の実践に当たっては、看護を生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることと定義します。

日常の看護行為としては

- ① 我々の未熟さのために患者の生命力をおとしめないこと
- ② 患者の生命力を消耗させるものへの科学的な対応を、すすめます。

民医連看護の3つの視点と4つの優点

○民医連看護の3つの視点

- ☆ 患者の立場にたち
- ☆ 患者の要求から出発し
- ☆ 患者と共にたたかう看護



○民医連看護の4つの優点

- ☆ 総合性と継続性： 医療が専門分化する中で、患者を生活と労働の場で見据え、総合的にとらえること
- ☆ 無差別性： 老人をはじめとし新たな生命に対する差別が進められている中、あくまでも無差別性を追求する
- ☆ 民主制： 民主的集団医療・民主的管理運営
- ☆ 人権と運動： ひとりひとりの患者の人権を守り、要求する立場で運動をすすめる

光陽生協病院きうつと看護

新人ナース奮闘記★

退院に向けての取り組み

- 症例検討を通して、看護学生の時とは入院の一部だけではなく、入院前・中・後を見る事が出来ました。今回は、入院中の患者さん（T氏）はもちろんのこと、退院を目の前にしたT氏とその家族と関わらせていただきました。地域に出て退院前訪問をするのは、初めての経験でした。私に何ができるんだろうという思いがその時ありました。実際T氏の自宅に訪問させていただき、T氏の家族に話を聞きました。T氏の家族は今までの介護について、「知ってもらえて、分かってもらえてうれしい。」といわれ、誰かに分かってもらいたいという思いが強かった事が分かりました。
- 実際に言葉だけを聞くのではなく、足を運んで目で見て一緒に分かち合おうとする心が大切だと思いました。医療連では地域に出て訪問する機会が多いと思うけど、その地域に住んでいる人と話をして、目で見て感じとって、少しでも心の支えになれたらいなと思います。この症例の患者さんや家族を通して、私自身も勉強になりました。

光陽生協病院
病棟看護師

木下 友花



光陽生協病院
病棟看護師

宮越 慎



キャリアアップを目指して★

4人の子育て中でも頑張ってます!!

日本認知症ケア学会が認定する資格。認知症ケアに対する優れた学識と高度の技能、および倫理観を備えた専門技術士であるとともに、日本における認知症ケア技術の向上ならびに保健・福祉に貢献することが期待されている。そのため、専門士が質の高い認知症ケアの実践を行うために、常に自分自身のケアを見直し、新しい知識や技術を吸収しケアに生かすことができるよう、専門士には生涯学習の一環として資格の更新（5年毎）が必要である。

私は今まで、認知症にはどのような症状がありそれに対してどのような対応をすると良いのか、また診断を進めるにあたってのスケールやテストなどについては看護学校でも学んできました。これらは認知症を病む人を観察し対応する視点で、もちろん必要な知識です。

- 認知症ケアの勉強をするようになり、これらの知識だけではなく、認知症を病む人が私たちやこの世界をどう見ているのかに心を寄せるという視点がとても大切な私には欠けているということに気付きました。実際に、治療を行い生命を守ることが最優先の医療現場で忙しい日々の業務の中、認知症も病んでいる患者さんを看護することは特に大変です。それまで在宅や施設で過ごしてきた日常の場とは違って、出来なくなることやご本人の意に反してやむを得ずさせて頂かなければならないことも出てきます。そういう現場であっても、認知症を病んでいる方が何を見、何を思い、どう感じているのか、どのような不自由があるのかを考えながら関わることが、患者さんの立場に立つということ、寄り添う看護につながると思います。そしてそれは認知症の方に対してだけでなく、どんな疾患を持った方に対しても同じだと思います。

光陽生協病院
病棟看護師

藤場 清美

光陽生協病院の 頑張った仲間達を 表彰しよう！



立派な賞を頂き、大変恐縮いたしております。「どうせするなら、気持ちよくする！仕事は楽しんで行う」23年連れ添っているパートナーの口癖です。この言葉には、悔しいですが、共感するものがあり、いつも辛い事があると思い出して、仕事をしています。今回賞をいただく事が出来たのは、半分は？主人のおかげかもしれません。さあ、次はあなたの番です。素敵な笑顔をたくさんの人たちに届けていきましょう！！



光陽生協病院

病棟看護師 畑 登美子



とてもすばらしい賞を頂きましたよ。現場では皆スタッフのお尻をたたいているだけです。皆はそれに答えてくれています。皆の協力があったからこそいただけた賞です。ありがとうございます。

光陽生協病院

病棟師長 松村 直美



ミスト・スマイル賞

グッド・クオリティ賞

縁の下の力持ち賞

グッド・クオリティ賞

まさかの4票で賞がいただけてビックリしております。いかに効率よく無駄なく業務が進むかということばかり考えて、少しでも楽しようとしているので、逆にお恥ずかしいです。折角このような賞を頂いたので、これからも医療・看護の質の向上を目指して頑張っていけたらと思います☆

光陽生協病院

病棟看護師 滝 真奈美

院内で事務という仕事に携わっていますが、医療スタッフとしては、なかなか陽の目を浴びる機会はありません。

なにか少しでも役に立てることがあれば、積極的に関わっていこうというスタンスでやってきました。

結果として、このような賞をいただけたことは大変光栄です。今後も頑張っていきますので、宜しくお願ひします。

光陽生協病院

病棟事務主任 田嶋 清孝



キラ
キラ



毎日一生懸命仕事をする中で、患者さんとの関わりで嬉しさや楽しさを感じることも多いと思います。しかし、時には忙しさの中で業務をたんたんとこなさなければならず、疲労感や無力感を感じこともあります。そうした中で一人一人が葛藤と戦いながらもより良い看護、医療をしたいという志を持って頑張っていますが、なかなか周囲には見えず、張り合いがないと感じてしまうのも現状です。今回、その頑張りを客観的に評価し、それぞれが刺激しあえるような環境作りの一つとして下記のような表賞を作成しました。受賞者の方たちを見ていると、思い当たる方たちばかりで、個人個人心に何か感じたと思います。

COPDの増悪を繰り返すNさんを在宅へ！

11月に入院されたNさんはなかなかの頑固者。薬の治療方針も「40代や50代の体と一緒にするな。」「自分の体はお前らにわからん」と、理解してくれませんでしたが、研修医の呉林医師が毎日「そうじゃないよ」と説明し、看護師・薬剤師スタッフも一致団結して、医師の方針が病院の方針と繰り返し一歩も譲りませんでした。少しづつ薬は整理され、病態は安定し、いざ退院の話が出始めました。

Nさんは、前回退院時HOTを導入しましたが、ストーブと一緒にでは火事になると消防所に相談し、HOTを独断で返納。往診ももったいないとやめてしまわれた武勇伝の持ち主。退院を説得するのも大変なら、自宅の居室が2階で、急な階段を自分ではあがることが出来ないという問題もありました。

病棟の森永看護師や呉林医師と訪問し、HOTの設置場所やサービスを相談し、家族の「文句ばかりなので何を食べさせていいかわからない」には、2階の看護師達が、病院の食事を写真で取り続けました。

そしてとうとう退院の日。その日は本当に冬の晴れ間のよいお天気の日で退院日和。

自宅へ医師も付き添い、2階の居室へは呉林医師がNさんをおんぶして上がりました。退院前の不安げな顔はどこへやら、テレビや物の配置を見て、早速注文をつけるNさんに医師と私も安心しました。

呉林医師は、前日Nさんに最後の話をした際、「すしが食べたい」と言った事を覚えていて、退院祝いにと、スーパーの握りずしを奥さんに手渡し驚かれました。

● 最後までNさんはNさんで、
● 自宅前の記念写真的仏頂面も
● 彼らしく、2日で救急搬送さ
● れるかと思いましたが、自宅
● で無事お過ごしです。この写
● 真はその時に渡した退院祝い
● のお寿司。ちゃんと食べてく
● れたかな？奥さんと娘さんに
● 「本当にありがとう。この病
● 院でしかこんなことできない
● と思います。」と手を握られ
● 別れてきましたが、医師と薬
● 剤師と看護師、チームで自宅
● まで送り届けられたこの症例
● は、私自身も温かくしてくれ
● ました。しかし、手ごわかつ
● たですよ。

Dr Kurebayashi



外来なまへす奮闘記

☆☆☆ 患者に寄り添う看護を！☆☆☆

内科 きらり看護

何気ない一言が一人暮らしの患者様を勇気づけた

夕方点滴を終えた患者様が、一人暮らしということもあり、医師から入院を勧められていましたが入院できないとのことで、家での療養についてお話し「一人で大丈夫ですか」と念を押し「つらかったら夜中でもいつでも病院に来てください」とお伝えすると、「今お聞きしたことで安心して帰れます」と言って帰られました。

外来での看護は、家庭での療養をいかに安楽に、安心してすごすことができるかだと思います。日常の診療の中で、何気なく伝えていたことですが、**言葉かけの大切さ**を改めて感じた一例でした。

患者様を生活と労働の場で、その方の立場に立って、総合的に捉え看護することが大事ですね。

健診 きらり看護 センター

「働く人々や、地域の人の健康を守ろう」を目標に、健康診断・ドック・保健指導を実施しています。会社に訪問し労働環境を知ることで、労働者の健康管理や、問題改善など産業看護に取り組んでいます。看護は病院の中だけではなく、社会にもたくさん求められています！

在宅 きらり看護

在宅医療の訪問診療（往診）とは、身体が不自由で出かけられない人とか、家族の都合で通院同行できない人の所に、医師と看護師が月に2回以上出かけて、診察するシステムです。

在宅にて医師の診察を受けられるという事は、本人・家族にとってとても安心するし、ありがたいと、往診の日々を待ちわびておられます。もちろん症状の悪化等で、検査や入院が必要となれば病院に来ていただくこともあります。そして24時間対応のシステムも導入し、病棟ベッドが在宅にあるとの思いで、担当医師・看護師はいつもどこでも患者様の要求・呼び出しに応えられるよう、専用の携帯電話を持ち歩いています。夜中でも何があるかわからないので、いつも傍に置いて寝ています。必要に応じての介護サポート・医療サポートの中継点として、連携を図る役割も担っています。



家族は家に居ると、いろいろな不安や心配事が出てきて、看護師を頼りに話しかけてくれます。

身体のケアも大切ですが、本人、家族の心のケアも多く求められます。

当クリニックでは30年の在宅医療の積み重ねであり、地域との信頼も保たれています。

ぜひ地域との信頼と看護に参加していただきたいと思います。



小児 きらり看護

小児湿疹かしらと軽い気持ちで受診したMちゃんのお母さん。検査結果で除去食を告げられたときの不安と戸惑い、数々の生活改善の指示に頭が真っ白になり、目に涙を溜め途方にくれていました。牛乳や大豆神話で、これらの食材を使わなければ、食べるものが何もない悲觀するお母様に、米や小麦の代用となる食材や料理法の説明や生活環境の改善など説明。また食物アレルギーの患者会「菜の花会」を紹介し、同じアトピーで悩むお母さん達の仲間に加わり、学習会や料理講習会に参加していくにつれて、徐々にアレルギー食のレパートリーも増え、今では、「アトピーの子をもつお母さんに少しでも力になりたい」と患者会で料理講習会の講師を務めるなど会の運営にも力を注いで下さっています。患者・家族の方々は、除去食という方法に、なかなか今までの食生活を切り替えることに対し、混乱し壁にぶつかりますが、私たち小児科看護師は「発想の転換で替えの食材をうまく利用して」と伝え、また衣・食・住の改善の働きかけや、患者会の運営など、お母様方の精神的な支えとなるよう配慮・励ましを常に心がけ外来看護に取り組んでいます。



糖尿病 外来 きらり看護

糖尿病の合併症を予防する為には、患者自らの自己管理が欠かせません。

一口に自己管理といっても患者の心理的、社会的な背景、患者の自己管理能力など様々です。誰もが意欲を持って取り組んでいるということではなく、むしろ心を傷めている患者が多いということがわかってきました。私達は「患者が意欲を持って自己管理を実践する為に何ができるだろうか」と日々悩み続けています。

S君は中学生のときに糖尿病と診断されました。中学生という難しい年齢ということもあり、糖尿病と向き合うことができませんでした。自分からはひとことも話をすることなく、一方的な私たちに不満も多く、怒って診察室を飛び出してしまふこともたびたびありました。このままではいけないとS君を追いかけて行ったことも何回かありました。彼の今の気持ち、何を考えているのか、どんな不安があるのか、何が悲しいのか、何に怒りを感じているのかなど診察室では聞くことのできない話をしてくれるようになるまで長い経過がありました。

現在は血糖コントロールには至っていませんが、挨拶ができるようになり、時には笑顔も見られ、何よりも治療に対する意欲が出てきたように感じています。

寄り添いながら信頼関係を築いていくことの大切さを実感し、そして「どんな時も諦めない」ということをS君から学び、私たち看護師も成長することができました。これからも患者の皆様とともに歩み続けて行きます。



キャリアアップ

日本糖尿病療養指導士（Certified Diabetes Educator of Japan） 安達 敏枝さん

CDEJは糖尿病患者に最も大切な患者さんの自己管理を指導する医療スタッフのことです。2001年3月に第1回認定試験が行われ今年9年目を迎えます。

約14,000人が医療の現場で活躍しています。資格を得るまでの過程が重要で、そのことが看護の実践に役立ち自信を持って患者さんに接することができます。

詳しくは ⇒ <http://www.cdej.gr.jp/>

つるが生協診療所

発信！

きらりん看護

禁煙外来から…

診療所ではホームページと院内掲示で禁煙をアピールしています。テレビでニコチンパッチの爽やかなCMも流れているし薬局で購入が可能になりましたが2月に入ってから5名の新規開始がありました。指導は予約制で行っており、初診時に看護師が1時間程度の指導をさせていただきます。指導に入った看護師が支援者となって、コース終了まで来院時に声かけをして関わって行きます。紹介する方は、36歳男性 年明けに海外出張があってそれまでに禁煙治療を終了したいとホームページを見て夕方駆け込みでこられました。意欲満々で本来予約で指導をするところ時間がなく特例で行いました。動機は子供にタバコやめて！と言われたとのことでした。以前に禁煙を試みましたが2週間で断念しています。禁煙していると、体調が良いことを経験し今回再チャレンジとなりました。ニコチンパッチで開始。2週後受診時には、吸いたい気持ちはあるが吸っていない、3回目受診時には吸いたい気持ちはあるが良い事も出てきたとのことでした。体調がよくなっている禁煙に自信が持てるようになったり タバコ代が浮いたなどの話も聞けるようになりました。最終日も駆け込みでした。禁煙できていて無事卒煙。海外でのストレスで吸ってしまうのでは？と心配もしていましたが、禁煙できた自分に自信がもて、このまま禁煙継続出来ることを願っています。後日 卒煙状とメッセージを添えて郵送しました。診療所だから密に関わって行く事ができるのではと思っています。



通院しなくてもよくなったのがさみしい・・

高血圧で定期通院されている89歳の男性。歩行が不安定で自宅で転倒。両殿部に広範囲のⅡ度の熱傷を追っていました。大きな水泡は破れて浸出液も多量です。入院治療をすすめられましたが、「他の病院は信用ならん。ここでなおしてくれ。」と頑固な返事。それから休診日以外の毎日、約2ヶ月半、5キロ以上の道のりをタクシーで通院されました。いつも頑なで気難しく、なかなか話を聞き入れない方でしたが、時間のかかる丁寧な処置を毎日受けて「ありがとな、すまんな。」と笑顔がみられ、ナース達とも気安い会話をされるようになりました。治療終了を迎えたときは看護師みんなも心から喜びました。後日「通院しなくても良くなったのがさみしい。」との本人談を聞いたときには、感謝とともに高齢な妻との二人暮しを今後もなんとか支えていきたいなあと思いを新たにしました。

★キャリアアップ★

BLS プロバイダー 成宮陽子さん



アメリカ心臓協会（AHA）のガイドラインに沿って日本ACLS協会が行う講習を受け、試験に合格し資格を取得しました。BLS（一次救命処置）コースは一日で、乳児、小児、成人のAEDの使用方法を含む心肺蘇生法について学び、実技試験と筆記試験を行います。（18000円）

ACLSコースは2日間で、BLSの確認と、心停止、重症不整脈、急性冠症候群、脳卒中などの初期治療について、講義とさまざまな状況設定でのシミュレーション訓練を受け、実技試験と筆記試験を行います。（38000円）

救急医療を学ぶ事は看護のどのような場でも役に立つ知識であると思い、資格をとりました。

2年で期限が切れる資格更新の時には、診療所の看護師みんなで受けに行きたいです。



患者さまとのかけはし

つるが生協診療所では看護師5名の中で慢性疾患管理、小児科管理、在宅管理をそれぞれ担当して管理しています。慢性疾患管理は2名の看護師と1名の技師の3名で管理しています。

3ヶ月以上通院を中断された慢性疾患の患者さまにはお電話をして、ご様子伺いと通院治療の再開をお勧めしますが、外来では気付く事ができなかったさまざまな事実をお聞きすることができます。



糖尿病の患者さま

徐々に体重増加あり、HbA1cが7.0%台に上昇。「次回もHbA1cが上昇し、今後HbA1c 8.0%台になることがあればインスリンを使う必要があること」をDrから話されました。その後の来院なく、お電話かけしたところ、精神的に負担を感じ、インスリンを使わず治療をしたいということで他院に受診。現在食事と内服治療で管理されているとのこと。医療者にとって注射を打つということは日常的な事ですが、患者さまは重症感を感じ、注射を打つことへの抵抗感、将来への恐怖など精神的な不安は多く計り知れません。診察後、看護師からの説明や声かけなどのフォローでわかっていただければ、不安を表すこともでき、治療を続けていたのではと思います。しかし、他院での治療を継続されていたので一安心しました。

高血圧の患者さま

3ヶ月中断にて様子伺いしたところ、送ってくれる人がいないため通院できず、近医で受診するようにしたとのこと。通院時はいつも夫が車で送ってくれていたが、夫も高齢になり運転免許証をかえしたとのことでした。高齢の方が増え通院する手段が少なくなっているという現状が見えました。

看護師へのエール

笑顔がきらり！ つるが生協診療所 事務長 平澤 公



医師・技師・事務…そして看護師。様々な職種の人間がその専門性をもって働いていますが、つるが診療所でのチームワークの主役は看護師です。患者さんにとっても相談しやすく、医療の知識もある。ポロっと予診で悩みが出てしまう。つるが診療所の看護師はみなそういう集団です。何がそうさせるのでしょうか？それは看護師さんの「笑顔」にあるのだと感じます。看護師の業務は、他のどの職種よりも幅広くまた奥が深い。時には、医者のように患者に相談され、時には事務のように書類整頓。困ったときや忙しい時もあるだろうにそういう事は一切顔に出さず、予診でも診察介助でも処置室でもいつも看護師の周りには、温かい空気が流れています。大変尊敬できる一面です。患者さんにとっても安心して自分の思いを打ち明けられる。「つるが診療所の看護師の笑顔」は、当院におけるおおきな特徴（武器）だと感じています。病気に効く薬はありますが、人の心に効く薬はそうはありません。当院の看護師の笑顔は、患者さんにとっても他の職員にとっても何よりの良薬です。

訪問看護ハピナス きらきら看護



その「人」に寄り添う看護！

60代、肺癌末期。脳、脊椎転移あり両下肢が麻痺している利用者さんです。全てを知った上で、家に帰りたいという強い思いで訪問看護の依頼を受けました。

月曜から土曜まで一日、複数回の訪問をして、主に病状観察、栄養、排泄、クスリの管理、褥瘡予防、介護指導などに関わってきました。介護者、ヘルパー、在宅医、薬剤師、ケアマネジャーとの連携にも、中心となり支援してきました。

夜間は夫、日中は1時間かけ遠方から娘さんが毎日介護に通っていました。

痛みのコントロールで麻薬使用の為か訪問中もウトウトされ、1日2回の訪問は眠りを妨げているのではないか?と思うほど。しかし、「1時間でも1人になるのは不安。みんなにゆっくりしていってほしい」との思いを聞き、気持ちに寄り添い本人のペースに合わせケアを開始しました。

苦痛の訴えは少ないものの、癌の末期状態。ひとりの時間帯もあり意識がボヘッとしていることもあって、今後どう過ごすのかハピナスの看護師も不安に思っていました。

本人と夫の思いを聞き取り、最期まで家で・・・との思いを確認しました。自分の病気が良くならないことを知りながらも、今自分の体がどうなっているか知りたい!と検査を希望され、落胆されるのではないかという不安もよそに、受診後には「行って良かった」と笑顔もありました。

食事もほとんど入らなくなり、眠っておられることが多い中、ある日看護師は「何かしたいことはありませんか?」と声をかけました。返答までに長い時間がかかりました。「すいません! ジャガイモとトマトを買ってきてくれませんか?」と今までになく大きな声で言われました。以前、自分で作ったポテトサラダが食べたい・・・と言っていた事を思い出し、「わかりました」と返事はしたものの、台所に立てる体力もない状況で自分にはこの思いを叶えることはできないと、事務所にそのことを持ち帰り涙しました。涙を流しながら、「かわいそう・・・」と管理者に訴えました。人としてみると「かわいそう」という感情が噴出するけれど、私たちは看護師として関わっているのだから、ただかわいそうではいけないのではないか?家族じゃないから看護師だからポテトサラダと一緒に作ることはいけないこと?一緒に本人とポテトサラダを作り、一緒に美味しいと味わうことが終末期の利用者さんにとって、とても幸せで素敵な時間ではないだろうか?と話し合いました。

娘さんに事情を話すと「母の得意なメニューです」と言われ、準備に協力してくださいました。

本人にはベッド上で味付けの作業をお願いしました。味見を繰り返しながら、「もうちょっと」と調味料を加えていき、「こんなもんかなあ」と、完成時には笑顔。その後は疲れて味わう所ではなかったけれど、夕飯にはご主人が味わって「おいしかったです。どうもありがとうございました」とお手紙をいただきました。

その後、2週間ほどで家族に見守られ自宅でやすらかに息をひきとられました。

訪問って楽しいよ(^^\)/~

状態観察・くすりの管理・リハビリ・話し相手・・・。

訪問看護師の役割は深いものがあります。訪問当初は

どこの家に行っても不安!!不安!!自分の看護がはたして

正しいのだろうか?喜んでもらえる看護ができるだろうか?と事務所に戻っては泣いていた日々でした。でも、「ありがとうございます」「待ってたよ」「あんたが来てくれて良かった・・・こんなたくさんの感謝の言葉を直接もらい、私は利用者さんに成長させてもらっています。相手に寄り添う、相手の立場に立つ、支える家族にも目を向ける・・・

これが私の訪問のモットーです。

訪問に使う
ハピナス号です!



つるが生協訪問看護ステーション ハピナス 藤木 良子

利用者さんからの一言

おきんからのメッセージ

毎週訪問に来ていただいて体操や体調についての話などをしてもら
く心くばりも良くしてくれるので訪問日が待ち遠しく、娘がくるよう
思いで、今か今かと楽しみにしています。88歳になりましたが、
心ウキウキ毎日を過ごしています。



小児(3歳)の訪問看護。お母さんからのあたたかい言葉です

ハピナスさんとの出会いは1年2ヶ月前のこと。子供と二人これから生活どうしていくか路頭に迷っていた頃、親切なスタッフさんによる細かな配慮で、時間や内容を把握してくださり、すぐ次の週から訪問してもらいました。子供の事を一緒に看てくれ、子供を安心して預けられ、子供と離れる時間が出来た事がどれだけ私の心のゆとりになったことか・・・。

保育園にも行けず、預かってもらえる施設が無いうえ、24時間の自宅看護体制で私ども家族もクタクタでした。あの頃から1年以上経過し、今は家族の一員として週2回2時間来てもらえることがとても待ち遠しく、又子供にとってもいい刺激になっています。子供のことはもちろん、私たち家族に対する言葉かけも親切で、「お疲れのようですが、大丈夫ですか?」なんて言って頂けると本当に涙がこぼれそうになります。まだまだこれから子供の成長と共にいろんな困難も出てくるかと思いますが、ぜひ、ハピナスさんのお力を借りて、一歩一歩前進していきたいと思います。

これから、あとしばらくになるか、まだまだ来ていただくことになるかもしれません、これからも私ども家族の支えていてください。とてもいい人達と巡り会えて感謝でいっぱいです。これからもよろしくお願ひします。

難病のおきんからのメッセージ

ハピナスさんとの縁がはじまって、もう何年かな? (←平成13年3月からです)

ボス(所長)と看護師Mさん、ケアマネのSさんとの出逢いを思い出すと胸がいっぱい、うまく語れません。今まで来てくれた看護師さんひとりひとりの顔も違えば、性格も違います。訪問看護の利用を始めた頃は、ひとりひとりの看護師さんの対応にとまどったりもしました。でも今考えると看護師さんの方もはじめは、さぞしんどかったと思います。

今は、毎日来てくれることが私の生活の一部です。本音で自分の気持ちもぶつけられるようになりました。ハピナスさんの力なくしては、どうすることもできないし感謝しています。毎日、看護師さんと冗談を言い合うのが楽しいし、時間の限り一生懸命働いている姿が頼もしいです。看護師さんは親子ほども年が違うし、少々おっちょこちょいだなあと思えたり、可愛らしいなあと思えるようになっています。

辛いこともあるかもしれません、看護師さんという道を自分で選んだのだから、そして私には皆さんが必要だから、これからも頑張ってくださいよ・・・

ハピナス専用の

携帯電話です →

休日・夜間問わず緊急
呼出があれば対応して
います。これで利用者
さんも安心(^^)v





光陽訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所

利用者さんと家族の 大事な思い出をまたひとつ…



○さんは平成13年にALSと診断されました。現在は気管切開をして人工呼吸器を装着しています。口の動きで読み取ったり、右足の親指でパソコンを打ち、コミュニケーションを取っています。80歳代の母親と叔父が全面的に介護しています。ヘルパーも利用しながら24時間体制で介護しています。

訪問看護は1日に3回訪問し、呼吸器管理、リハビリ、介護支援などを行なっています。痰が多く吸痰とアンピュによる換気を頻回に行い、長い時には30分程付きっきりになることもしそうです。

外出の機会は寝たきりになってからは少なくなり、いざ外出しようとなると大変です。年に1回のALSの総会と桜の花見に出かけるのがやっとです。

今年も恒例の、花見の季節がやってきました。今年でもう3回目です。桜の花の咲く時期はまだまだ寒いものです。縁の下の力持ちであるケアマネが、天気予報を見ながら、仕事をしている夫の休日や訪問看護の体制など考えながら、日程を決めるのも大変です。

花見当日の準備はもっと大変で、吸痰器やアンピュなど山のような荷物を用意し、出発までに排痰をして、きれいにおしゃれをして、と時間の掛かる事。いざ、車椅子に乗るとまたまた痰が湧き出して吸痰。その内、日が暮れちゃうかも・・・と、焦ります。

出かけるのは大変だけど、年に1回しか咲かない桜を見にほしいとの思いから、がんばっています。



笑顔の素敵な○さん。サクラの下で家族に囲まれての笑顔は格別だね。

翌日○さんからこんなメッセージが届きました

光陽の皆さん、お花見ありがとうございました

ケアマネと2時出発！寒くてガタガタ震えましたが、雨は降らなくて感謝です。まず
兎越え民家苑で一時下車。桜を見ながらカルチャーパークまで石畳を車椅子で散歩。

公園はコブシやパンジーなど花がいっぱい・・・ここをバッグにパシャ！

ガタガタ揺れたのと寒いのとで吸痰が続くこと20分余り、再び車で移動。

足羽河原で訪問看護師さんと娘と孫達が合流して安養寺へ。

美しいピンクの枝垂れ桜の下・・・皆で又々パシャ。パシャ！

今まで、1番寒くて大変でしたが、皆に囲まれて、花に囲まれて、久しぶりでお出かけした喜びのほうが、まさって・・トップモ嬉しい貴重なひと時でした。

平日なのに思いがけなく子供たちにも会え、母も参加で本当に良かった。

家に着いたら間もなく、理学療法士さん登場！冷え切った身体をマッサージで温め癒
して下さいました。皆さんのお蔭で又大事な思い出を、ひとつ作ることが出来まし
た。これに懲りずに又連れて行って下さいネッ・・・V(^_^)V



頑張れ！！

頑張れ！！



いつも笑顔
で頑張って
まーす ♥

看護が楽しい！！

光陽訪問看護ステーション

西村 さくら



利用者さんの笑顔が楽しみ♥

光陽居宅介護支援事業所

牧江 幸美

病棟・小児科外来・病棟と移動して、現在
ステーションにきて早2年目となりました。
訪問看護は1時間ゆっくりと利用者さんに
ケア出来て、足浴や散歩など、自分がやりた
い看護が出来るのでやりがいがあって楽しい
ところです。訪問から帰ったら、利用者さ
んの情報交換をするのですが、にぎやかで
話が途切れません。皆で相談し、アドバイ
スしあったり出来、次の訪問に活かせたり、
充実した毎日を送ってま～す。

病棟や老健の看護師を経験し、居宅に移動
して4年がたちます。ケアマネの仕事は在
宅での生活を支えるお手伝いをしていま
す。生活背景や介護力は個々違い、プラン
を考える事は大変だけど・・。やっぱり家
が一番という利用者さんの笑顔を見るのが
楽しみです。責任は重いですがやりがいの
ある仕事です。



あじさいきらきら看護



～認知専門棟での「住み慣れた家へ帰る」の取り組み～

家に帰れるよ。



生活保護を受けている86歳男性。病気がちな弟さんと近所の人に支えられて今まで生活をしていました。3年前に肺臓ガンが見つかりましたが積極的治療はせず保存療法のまま退院後あじさいに入所されました。しかし本人の希望は「家に帰りたい。」です。面談のたびに本人が「帰りたい」と言っていることを市の担当者に伝え、今のままの3階では本人が生活できない事も伝えましたが住宅の変更は難しいとの事でした。あきらめずに面談を重ねとうとう市の担当者から「先生の診断書があれば・・」との返事をもらい弟さんに「春になったら家に帰る準備をしましょう。」と説得し手続きをしてもらいました。本人の体調の悪化もあり何回か入退院を繰り返して現在に至っています。3月に入って弟さんから「アパートの1階が空いたみたいやで帰れます。」と連絡が入ったので今急いで準備を進めています。3月16日には家屋調査に行ってきました。本人のうれしそうな笑顔に参加者は大満足です。本人の思いを叶えるため頑張っていきます。



寝たきりでも外泊させたい!!
との娘さんの思いに応えて

Yさんは、池田町で独居していましたが、寝たきり、胃ろう管理となり2つの病院を経てあじさい入所となりました。福井市内に住む娘さんは、来所時に散歩に連れ出すなど急に寝たきりになった母への思いが強く、池田町の特養入所中の夫に会わせたいと介護タクシーを頼み外出させたこともありました。

その後夫が亡くなり外出の機会もなく次の行き先も定まらなくなりました。08年3月胃ろうからの寒天注入を覚え池田町の自宅に外泊させたいとの娘さんの希望が出されました。お盆の外泊を目指し受け持ち看護師が中心となって4月から注入の指導を続け、5月には手技をマスター。6月には娘さんと看護師、OT、SWの話し合いを持った上で本人も連れ訪問調査に行き、家屋の状況から外泊時の必要物を検討しました。体動が激しく座位バランス不良で胃内容物が逆流するためリクライニング型車椅子使用でしたが、自宅での移動が大変ということで普通車椅子に変更し、移動前に胃のガス抜きをすることとしました。ベッド↔車椅子移動やおむつ交換などの指導も行いました。寒天は自宅では作れず、厨房と相談し1日の3回分のみ保冷バックでの持参を決めました。

こうしてお盆に丸1日の外泊を実施!短い間でしたが仏壇の前で涙ぐんだり、久し振りの息子さんの顔に反応したりと、住み慣れた家で家族に囲まれ、表情豊かに過ごせたそうです。

さらに09年3月にももう1泊できました!試行錯誤の繰り返しでしたが、なかなか在宅復帰は難しい利用者さんが多い中、「寝たきりの方でも外泊を!」との視点と取り組みを今後も広げていけたらと思います

家族さん、利用者さんの1番の理解者は私達です

そう自信を持って言えるあじさい職員になりたい！



生活の中で見えてくる気持ち、行動を理解し、チーム内で話し合いを重ね、情報を共有することで見えてきたたくさんの笑顔たち。。。

Nさんは現在65歳。4年前に心臓弁膜症の手術を行い、術後心室細動から心停止、蘇生後脳梗塞にて右上下肢麻痺、失語症となってしまいました。失語症であり、自分の言いたい事はすべて「トートー」で返事。怒っている時やうれしい時は、表情と口調で分かるのですが、何かをして欲しいとなるともう大変です！Nさんは、一生懸命全身を使って「トートトトトー！」と表現してくるのですが、新人の頃はそれが分からずNさんを怒らせてしまった事もありました。先輩方はそれでもNさんとコミュニケーションが取れており「何でわかるの？」といつも感動していました。あじさいでは毎週2回、チームでカンファレンスを行っています。利用者さんの問題点、援助していく中で見えてくる利用者さんの想いを、医師、看護師、介護士、OT,相談員、栄養士を交え様々な視点から話し合います。Nさんも、最初は何をするにも拒否的で対応に不安がありました。しかし、カンファレンスにて情報を共有しケアの統一性を図る事で、いつの間にか笑顔が見られ、拒否的な態度はなくなっていました。

今では、どの職員もNさんの「トートー」でコミュニケーションが取れ、良き理解者となっています。これって結構すごくないですか？？



デイケアでも頑張っています！

デイケアの現在の利用者総数は50名で、1日の平均利用者数は16名です。その中で、看護師の役割は主に医療管理です。それぞれの方の疾病的把握、内服管理、褥瘡処置などです。

Kさんは一人暮らしで糖尿病にてインスリン療法を行っている方です。利用当初は職員とのコミュニケーションがうまくとれず、自宅ではインスリン量も独自の判断で行なっていました。血糖コントロールも不良で、利用時には低血糖も頻回にありました。しかし、看護師と1対1で関わっていく中で信頼関係が深まり、看護師の指示も拒否することなく受け入れてくれるようになりました。体調の変化などもケアマネに報告し、往診看護師と連絡を取りながら対応しています。最近では血糖コントロールも安定してきました。他者との交流も増え拒否していたりハイビリも行なわれるようになりました。

このように利用者の変化を感じることで、看護師としての役割を強く感じています。今後も利用者の健康管理を行いながら、安心してデイケアに通っていただけるよう頑張っていきたいと思います。

★ デイケア看護師 土井 恵 ★

「育ちあう研修」をモットーに！

民医連の研修のモットーは、「育ちあう」。一人ひとりの成長を大切にしています。

基本的なプログラムを元に、それぞれの段階に応じた研修に組み替え研修を進めています。卒後3年間は、基礎をつくるのに大切な時間です。また、どういう看護師を目指すかという「看護観」に大きな影響を与える時期もあります。

新人ナースのメンタルヘルスにも配慮し、しっかり寄り添い職場で支えることを大切にしています。

ひとつ：屋根瓦方式フリセフター制です

2年3年目のフリセフターと5年以上の中堅フリセフターの二重指導です

何でも聞ける、話せる若い先輩と、しっかり技術・疾患を理解する指導は中堅先輩が行います。

ふたつ：技術チェックリストや研修ノートを利用して一歩ずつしっかりと研修を積み上げます。

みつつ：他職種との交流・グループワークを通して、医療人として成長していきます。

よつつ：日常看護をより発展させるために看護研究に取り組んでいます。

毎年民医連の看護実践をまとめて発表します。2年に1度行われる全国の民医連の看護活動交流集会は全国から1000人を超える看護師が集い学び交流します。

ゆっくりあせらない研修がよかった！

他の病院と比べると、夜勤に入るのもずっとゆっくりで友達との差を感じてあせることもありました。でも、日勤をしっかりできたおかげで、看護ケアをしっかり学ぶことができました。ゆとりを持って、先輩看護師の指導を受け病態の変化、救急対応の経験が積めました。研修ノートは、とても役立ちはじめました。先輩からの交流・グループワークを通して学びあいました。励ましの言葉がもらえ、よくなったことのアドバイスあります。話すのが少し苦手な私には、研修ノートに助けられました。いつも先輩がそばにいてくれ、安心できました。学校のときのように着実に理解していくところがココの研修度です。



私の成長が患者さまの元気につながるように…。

無差別平等の医療

いのちの平等はあたりまえ

差額ベッド代をいただかないということの大切さ

「こんな病院あったんですね。本当にありがたい。もう、（お金が）もたないなと思って不安でした。」

T 病院から入院してこられた患者さんはMRSAで個室に入り治療を受けていました。個室料金は、30万もかかっていました。もちろん医療費の他にです。息子さんは、お父さんにはよくなつてほしいと思いながら、「先の見えない不安に面会しても笑顔になれなかつた」と言いました。

その後、病態が落ち着き、施設へ退院されていきましたが「何かあつたらまた来ていいですか？この病院にきてから、怒ってばかりの父が笑うようになりました。僕もです。この何年かの中で、初めてこんなに落ち着いた気持ちになれました。病院ってあつたかいものなんですね。」息子さんは笑顔でお父さんと退院されました。

病気の時ほど、また、病気の家族を持った時ほど安心して治療を受けて欲しいものです。しかし、医療を受けかかる費用負担は小さくありません。

「お金がないんです。」入院当日に、家族の体を気遣いながらそれでも言わずにいられない苦汁の表情を浮かべた家族にも私たちは会うことがあります。「一緒に相談しましょう。分割も助成もいろんな方法がありますよ。うちの病院はお部屋代も創立以来いただいているから、大丈夫安心して！」ほつとした笑顔になる家族・・・。

患者さんに向き合いながら、安心して医療を受けて欲しいと心から思います。そして、安心して医療を受けられる病院であり続けたいと思います。私たちは、そんな病院で働いています。「もう福井県内では私達だけですが、創立以来お部屋代をいただいていません。安心してください。」この言葉に誇りを持っています。

安心してだれでも・いつでも・どこでも医療受けられることをざして
無差別平等の理念・創立以来一貫して掲げて発展してきました。

福井民主医療機関連合会 看護委員長 南部清美

「いつでもどこでも優しい目と手、確かな知と技」



福井民医連きらり看護作成委員会 2009年4月

○ 小林洋子 竹川幸枝 金井房江 野田富士子 森川十寸穂
佐藤聖子 成宮陽子 藤木良子 澤崎真紀美 田上和江

事業所紹介

★ 光陽生協病院 〒910-0026 福井市光陽3-10-24

TEL 0776-24-5009 fax 0776-24-8741

★ 光陽生協クリニック 〒910-0026 福井市光陽3-9-23

TEL 0776-24-3310 fax 0776-24-5738

★ 光陽訪問看護 ST 〒910-0026 福井市光陽3-9-23

TEL 0776-24-9996 fax 0776-24-9978

★ つるが生協診療所 〒914-0123 敦賀市和久野14-22-1

TEL 0770-21-0176 fax 0770-24-2044

★ つるが生協訪問看護
ハピ+ス 〒914-0131 敦賀市公文名1-6

TEL 0770-25-4351 fax 0770-25-4352

★ 介護老人保健施設
あじさい 〒918-8041 福井市西下野町15-12

TEL 0776-33-5911 fax 0776-33-6691

★ 福井県民主医療機関連合会

〒910-1142 吉田郡永平寺町松岡兼定島31-13-6 TEL 0776-61-2678 fax 0776-61-2679
分室 〒910-0026 福井市光陽3-9-18 TEL 0776-27-6648 fax 0776-25-6793